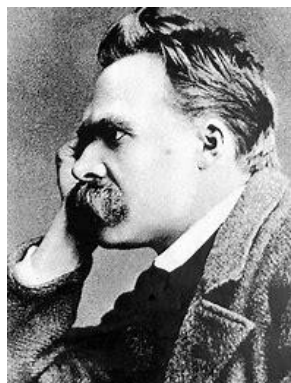


『Mind Charging』

第 27 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 12 日

ニーチェの名言



The search for truth begins with the doubt of all ‘truths’ in which one has previously believed.

真実の追求は、誰かが以前に信じていた全ての”真実”の疑いから始まる。

真実とは、様々な意味で捉えることができると思います。スポーツ活動で例を挙げると、以前は水を飲まない方が良いとされていましたが、現在は水を飲むことは『当たり前』のレベルです。これまで、そういった研究や調査の結果や社会における『トレンド』が、ニーチェのような考え方の持ち主たちの努力によって新たな『真実＝常識』としてアップデートされてきました。

時代の流れの激しさは、その時々によって違うと思いますが、あくまでもそれはそれぞれの感覚の話であり、時間の流れるスピードは変わりませんし、真実を追求しようとしている人も必ずいます。目の前で起きた出来事、報道のスタイルや内容のスケール感によって錯覚してしまっているだけで、どの時代のどのタイミングでも『激しさ＝濃さ』は変わらないはずですが。

インターネットの発達により、スマホがあれば誰でも世界中のありとあらゆる情報を入手できる時代です。誰でも真実を追求することができ、新たな真実にたどり着くこともできるということです。そのために、『真実を疑う(見極める)力』が必要になってくるとと思いますが、本校の校訓である『選択・専修』は、まさにその力を養うための方法であり、今までの真実を作ってきた人々も同じ思いだったに違いないと思います。(編集委員：入試広報室 鈴木)

フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ(独: Friedrich Wilhelm Nietzsche, 1844 年 10 月 15 日 - 1900 年 8 月 25 日)は、ドイツ連邦・プロイセン王国出身の哲学者、古典文献学者。現代では実存主義の代表的な思想家の一人として知られる。古典文献学者フリードリヒ・ヴィルヘルム・リッツェル(英語版、ドイツ語版)に才能を見出され、スイスのバーゼル大学古典文献学教授となつて以降はプロイセン国籍を離脱して無国籍者であった。辞職した後は在野の哲学者として一生を過ごした。随所にアフォーリズムを用いた、巧みな散文的表現による試みには、文学的価値も認められる。(Wikipedia 参照)